

原発事故と生肉食中毒

今回の東京電力福島第一原子力発電所での事故に関して「安全神話の崩壊」という決まり文句をよく耳にする。しかし1965年に起こった高速増殖原型炉「もんじゅ」のナトリウム漏出事故など原子力関係の事故は一回限りで大事でないにしろ、今まで何度もあった。その度にこの決まり文句が使われてきた。

期せずして同時期に問題になった激安ユッケの食中毒事件、そして今の菅直人首相がカイワレを食べたO157やBSE。他にも産地偽装と、食の世界でも安全神話、実は何度も崩壊している。同じような構図は原子力や食だけでなく建築や交通など、さまざまな分野で繰り返されている。

「安全がある」という神話

ド・ボパールでの殺虫剤製造工場事故——最終的には2万人以上ともいわれる死者を出し周辺はいまだに汚染されている——など、世紀末に多発した何らかの重大事故を教訓に、世界の工業標準を定めるISO(国際標準化機構)は99年のISOガイド51の改定で「絶対安全は存在しない」と明記した。「絶対安全」の建前を明確に捨てるのが社会をより安全に近づけるため



坂村健氏撮影

野で以前は確立だった日本がまったく存在感がなくなっているという。外国での技術開発もポイントでは安全な食品として安全を確保するという管理手法で、世界ではこれが主流になってきている。ここで

結果論的な規格を決めるというのが日本の食品安全規格。しかし状況に応じて表面をトリミングする(削る)とか、タキのようにあるとか、長い間に痛い目にあつた経験や元を生をより安全に食べる不

世に絶対安全がない以上、やるかやらないか、どこまでコストをかけるかというところは、事故想定確率とその被害額を掛けた値と、社会的な安全概念の時代に日本は入ることができないのである。

全がある神話」をかたくなに捨てようとするいからた。「安全」とは兎もあらず「100%安全」に近づけるための不断の「より安全になるためのプロセス」しか存在しない——それが近年世界の工学界では一般化している。「機能安全」の基本思想だ。

「機能安全」の規格制定についても欧米が中心で、安全分野で以前は確立だった日本がまったく存在感がなくなっているという。外国での技術開発もポイントでは安全な食品として安全を確保するとい

「安全」とは兎もあらず「100%安全」に近づけるための不断の「より安全になるためのプロセス」しか存在しない——それが近年世界の工学界では一般化している。「機能安全」の規格制定についても欧米が中心で、安全分野で以前は確立だった日本が

「安全」とは兎もあらず「100%安全」に近づけるための不断の「より安全になるためのプロセス」しか存在しない——それが近年世界の工学界では一般化している。「機能安全」の規格制定についても欧米が中心で、安全分野で以前は確立だった日本が

「安全」とは兎もあらず「100%安全」に近づけるための不断の「より安全になるためのプロセス」しか存在しない——それが近年世界の工学界では一般化している。「機能安全」の規格制定についても欧米が中心で、安全分野で以前は確立だった日本が

「安全」とは兎もあらず「100%安全」に近づけるための不断の「より安全になるためのプロセス」しか存在しない——それが近年世界の工学界では一般化している。「機能安全」の規格制定についても欧米が中心で、安全分野で以前は確立だった日本が

に重要とわかったからだ。しかし日本人は大前提としての「100%の安全」という状態がまずある。それが何らかの「あつてはならない」原因で損なわれるから「危険になる」と考える癖から抜け出せない。そのためかISOでの機能安全の規格制定についても欧米が中心で、安全分野で以前は確立だった日本が

安全のプロセスを踏んでいないというところで拒絶される例も増えてきている。食の安全の分野で、「機能安全」の考えを取るのがHACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)。食品製造の際、工程の中の危険を起す要因を分析し、それを最も効果よく管理できる必須管理点を定め、そこを連続的に管理

という概念の否定である。日本でもHACCPの考え方は、厚生労働省の総合衛生管理製造過程などに一部取り入れられてきているが、やはりなじんでいない。今回の激安ユッケの件でつたんの社長が反論で言った「生食用の規格の牛肉は流通していない」という言葉もその表れだ。

「生食用の肉を表面の「細菌が何個まで」というような理由が「業者がユッケ用と加工してきたから安全と思つた」というのなら、まさにこの社長が「安全がある神話」にとどまっていたのが今回の根本原因だ。

食の安全も同様。「価格が安いものは危ない」というのは一昔前まで常識だった。それはまさに経済性による健全な判断であり、それを失わせたのは「すべての食品は本来的に安全である」という「安全がある神話」のためだろう。皆が優秀でそれぞれの現場でコストを掛け安全になるべくして努力したからこそ実現された日本の安全。しかし、その時代が続いたために、いつのまにか安全が本来の状況と皆が信じ込んでしまった。しかし、それはもはや過去の神話」を捨てるしかない。人々が「安全がある神話」を捨て